［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月6日

【評価実施概要】

事業所番号	３７７１１００５７９
法人名	株式会社アイ・ディー・エム
事業所名	グループホームあすか
所在地	香川県東かがわ市川東８８ （電　話）0879－26－3015

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成２１年８月１６日	評価決定日	平成２１年１０月６日

【情報提供票より】（21年7月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成　12年　5月　1日	
ユニット数	4ユニット	利用定員数計　36人
職員数	32人	常勤　25人，非常勤　7人，常勤換算　30．0人

（2）建物概要

建物構造	S型3階建耐火建築造り
	3階建ての2階～3階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30，000円	その他の経費（月額）	9，575円＋実費
敷　　金	有（　　円）	無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　　円） 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食　　円	昼食	円
	夕食　　円	おやつ	円
	または1日当たり　1，200円（おやつ代除く）		

（4）利用者の概要（7月1日現在）

利用者人数	36名	男性	11名	女性	25名
要介護1	5名	要介護2	3名		
要介護3	15名	要介護4	12名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢　平均	84．3歳	最低	65歳	最高	96歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団聖心会 阪本病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路に沿ったエリアに関連病院、施設があり、3階建ての建物の2～3階に事業所がある。各階にユニットが配置され、同階上では有機的に設備、スタッフが機能している。交通量の多い幹線道路であるが、うどん屋、喫茶店が近くにあり、また徒歩10分程でJR駅、商店街が位置している。関連病院が隣接されていることから、入居者の家族は医師の指示による適切な対応を期待し、安心度も高い。

介護におけるセンター方式の導入への努力、定期的部内研修、専任施設長設置への方針、暮らしよく介護しやすいための設備の改善への方向等ハード・ソフト面での意欲的取り組みがみられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

創設当時に設定された理念について再度検討を行い継続することにした。全員での取り組みと、理念の理解の共有に努めている。部内の定期的研究会の開催とそれによる介護の技術の見直しがはかられ、組織面の改善（専任施設長）が考えられている。部内だけでなく、部外研修、同業者との交流によるサービス向上に意欲的である。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

全員で評価のまとめに取りくんだ。改善させたい項目、改善方法を検討した。ハード面での改善点について、運営、経営面での方向性が進んでいる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

事業所から状況説明（外部評価、運営状況）が主なものである。意見、検討の活性化を期待して、資料を工夫している。

消防訓練への地域の参加協力が得られた。市職員には具体的な現場の課題について意見を求める機会に活かしている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族の来訪時には、必ず言葉を交すようにしている。また、月一度の来訪時には状況を伝え、意見をきくようにしている。家族会時の意見も反映させている。家族からの意見、気持を受けとると、スタッフで話し合い、意向を介護に反映させている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域小学校の行事参加、定期的な来訪には積極的に受け入れている。地域の一員としての連携、役割、協力は今後の課題である。

2.　評 価 結 果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創設当時に独自につくりあげられたものである。前回評価後、理念について検討したが現在のものを掲げていくことになった。	○	創設当時に比して入居者の状況変化、その後グループホームの役割として地域に根ざした役割が加えられた。「家庭的な環境のもとで」と共に、地域住民との交流の観点からも検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全てが理念を理解共有したうえで実践を行う重要性から毎朝、担当者が解説を付けた理念を読み上げたうえで仕事を始めている。一人残らず理解の共有、浸透させようと取り組んでいる。	○	理念の意味するところを職員全てが理解し、浸透をはかろうと取り組む努力をしている。理念が実践の中で具現・展開されているのか、確認の機会をもち、日々の取り組みが理念の意識化となることを期待したい。
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域小学校行事の招待に参加、また外部の人（小学生、ボランティア、季節行事等）の来訪は入居者の喜びであるので交流に努めている。 散歩時の挨拶の交わしは欠かさないようにしており、また、地域と触れあう機会を増やせるようにルートを柔軟にしたりしている。	○	事業所と地域との交流を進めていくために、入居者と地域の人々との交流の前提として職員が地域の一員としての交流の機会を見出すことから展開のきっかけとなるよう期待したい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「勉強したい」との要望が顕在化し、月一度カンファレンスの会議時にテーマを設定、発表・討議を実施している。現在までの4回には、介護技術、プライバシー等基本的な振り返りの機会となり、日常的な場面でお互いに気づきを助言しあうようになった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度の開催である。事業所の運営状況の報告がほとんどを占める。（外部評価の結果、行事予定等）運営に活かせるよう積極的に活性化させたい思いがある。地域行事（清掃）への情報提供の場となっている。 消防訓練への協力参加が得られるようになった。	○	運営推進会議が運営、サービスの向上に活かせるためにより活性化へ取り組みたい意欲がみられる。 グループホーム事業に隣接領域に関連した地域のメンバーの参加を再考する等検討されたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の折にメンバーの市職員に行事予定や連絡事項を伝達したり疑問点を問いかけている。より密な話しあいができることを願っているが叶えられないでいる。 介護相談員の来訪時にサービスの向上について相談、助言の機会としている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度の支払い来訪時に全ての家族と顔を合わせることができる。当日のリーダー（順番制）か管理者が状況を説明する。特別な変化が入居者にある場合は即連絡するようにしている。 すべての家族と十分な話し合いがもててないとスタッフは感じている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会が開催されている。話された内容をスタッフで話し合い、介護に活かしている。介護相談員からの意見を反映させている。 評価訪問時に盆帰省に同行した家族が来訪し、スタッフと言葉を交している姿が見られた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所全体として職員の質的向上等の考えから異動がなされているが、馴染みの職員の異動で入居者に混乱を与えた状態に職員は心を痛めた。異動時にはできるだけ入居者に言葉がけをして混乱を抑えるよう努力している。2階と3階の異動の場合は、日頃から入居者に馴染みの関係を築く取り組みを考えてみたいとのことである		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前回の評価結果の検討から、研修計画（月一度テーマ設定された研究会）が立てられ、介護のレベルアップに取り組んでいる。 外部研修情報は全て伝達、受講希望を募ったり、管理職からの勧めで参加している。勤務調整もされている。受講後は伝達研修も実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部外研修時に参加者との交流に努めている。他の事業所への訪問によるサービスの向上を望んでいるが、時間とタイミングが得られないままである。	○	部外研修時等の機会を活かして、交流、訪問のきっかけにしたい意思がうかがわれるのでぜひ実現していただきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接病院入院者からの入居希望者が多い。病院より連絡時病院の各部より情報収集した資料をもとに入居予定やプロフィールを全スタッフに説明している。 入居以前に見学を歓迎しているが家族のみが多い。在宅からの入居希望者については施設長が面接し、相談しながら入居をすすめている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が以前親しんだものづくりや昔のいいまわし（方言等）をとり入れたレクリエーションでスタッフが学び共に楽しむ機会となっている。小学生の来訪時の入居者の生き生きとした感激の場面を写真として張り出して会話のきっかけとしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護度が重くなってきている入居者自身からの意向を聞き取ることは困難になってきている。家族からの情報や入居者の素振りや表情から思いや望みをくみ取るよう努力している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れ、全体への浸透を試みている。入居者のよい暮らしを目指している。介護記録や家族の意向を元に介護計画を立案し、計画作成後に家族に説明している。介護計画立案を目的設定した面接や計画立案時の家族の参加までには至ってない。	○	介護度の重度化が進み入居者本人からの意向、希望表示の困難度が増している中、介護計画作成にあたっては、より広く家族との深い話し合いを反映したいとスタッフは望んでいる。 センター方式を採用、充実させることにより入居者のより良く暮らす介護計画に反映され、全ての家族との話しあいも深まることに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しのためのモニタリング、アセスメントは的確にされている。体調のわずかの変化に敏感であることが求められる入居者が増加し、変化があれば直ちに対応し、現状に即するように計画を作成し直している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の急変時、医療面対応に支援している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をしている。隣接の病院には多くの診療科が設置されており、希望により主治医に変更する人がほとんどである。検査結果の情報も提供され、連携が密接である。精神科は他医療機関を主治医としており、家族が同行受診している。受診時には家族に入居者の状況を伝えている。主治医と事業所の連絡は家族を通じて行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族と話しあって文章化している。終末期のケア、重度化等の医療面で適切な時期に医師（主治医）が家族に具体的方針を説明し、方針を共有し対応している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会で入居者の尊厳ある介護、慣れからくる介護の見直し（排泄の言葉かけ、入居者の失敗への対応に気づき）の機会を設け、以後相互に必ず助言し合っている。家族以外への入居者の情報提供、入居者の記名された不要書類の焼却など勉強会により、スタッフの意識変化が大きくみられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的生活の介護には入居者の表情やペースに合わせるように心がけている。買物外出、日常的外出、入浴等は設備や職員数により十分支援ができてないとスタッフは気になっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、調理は集中厨房でされている。食堂ではご飯が炊かれ湯気がたち食欲をそそる。簡単な副食（みそ汁）くらいは入居者の近くで共に準備したいとスタッフの気持である。刻み、とろみ等は入居者の能力を考えてされている。介護度が進み、利用者と共に準備することは難しくなっているが後片付けに励んでいる入居者もみられ、やりがいとなっている。おやつは毎日曜日に入居者と共に購入に出かけ好みを取り入れている。食事場面を共にしたが、入居者の声に即刻対応が難しい場面がみられ、入居者の食事終了まで見守れるような落ち着いた雰囲気がほしい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	創設時整備された浴室事情、入居者の重度化に伴い原則入浴時間、回数（昼食後、週2回）の支援である。夜の入浴を希望している入居者もいるが叶えられないでいる。	○	入居者が快適に介助者が支援しやすい条件が十分でない浴室周辺の設備改修の方向が検討されている。入居者が望む入浴支援へ改修工事の成果を活かしてほしい。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植木鉢の水やり、食後の洗い物は役割として発揮している。編み物、昔のいいまわし、昔の遊びなど披露の機会には、スタッフが教えてもらい入居者は先輩として生活歴から得られた知恵を発揮して張り合いとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	リハビリテーション訓練への復路をまわり道しての散歩、日曜日のおやつ購入時の外出、家族との外出がある。スケジュールのフリーな日に限定された人の散歩の機会はある。日常的に外出可能な人を検討して叶えられるよう努力したい気持ちもあるので、外出による五感刺激の機会を大事にしてほしい。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	幹線道路に面し、3階建ての2～3階部分を占めている点から、入居者の安全面を考えてエレベーター、階段に施錠されている。家族来訪の際使用するエレベーターで入居者が外へ出てしまい、心配したことがあった。工夫、知恵を学んで取り組みたい気持ちである。	○	鍵をかけない取り組み（鍵をかける弊害）の可能性を再考されたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議上での成果として、地域の協力を得て、消防訓練、避難訓練を夜の時間帯に設定して実施した。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取状況は記録に残されており、心配される場合には早めに意思等に相談して対応している。 水分確保、捕食には入居者の好みの飲み物等家族の協力で確保できるように備えている。献立は栄養士管理している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の一角にはソファーがおかれ、食事後お気に入りの場所で談笑したり、一寝入りしている人もいる。壁には献立表、絵、写真等がはられて楽しめる。廊下の先には白いカーテンが季節を感じさせてくれる。 車いす介助のトイレ、洗面台は入居者、介助者には使い勝手が難しそうに観察された。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望や家族の要望で馴染みのあるもの（時計、写真等）が置かれ、部屋の個別性が見られる。 職員も入居者が居心地よく過ごす意味を踏まえて家族に居室の環境づくりへの協力を呼びかけている。		